

Course number		U-LAS70 10001 SJ50					
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：生き方としての哲学—映画を通じて教育を考える		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Education Professor,SAITOU NAKO			
	ILAS Seminar :Philosophy as a way of life—Thinking about education through film						
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Hours	30	
Class style	seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2026・Intensive, First semester		Quota (Freshman)	25 (15)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Intensive	
Classroom	12, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. North Wing				Language of instruction	Japanese	
Keyword	生き方としての哲学 / おとなの教育としての哲学 / 映画 / エマソンの道徳的完成主義 / 美しい知識						
[Overview and purpose of the course]							
本授業では、「哲学」をたんに一専門分野としてではなく、ひとりひとりの生き方と不可分な学際的・超学際的学問として捉え直し、それを通じて、一人ひとりの日々の生き方や意思決定の仕方を転換することを目指す。哲学は、抽象的な概念の探求にとどまることなく、自分自身や社会の問題に対して「どう生きるべきか？」を問い続ける実践的な学問である。本授業では、哲学者の思想をテキストで学ぶだけでなく、現代社会の課題や個人の価値観の形成にとって不可欠な「生きた哲学」としての視点を養う。							
この目的を達成するために、本授業では「エマソンの道徳的完成主義」を主題に、それに関わる映画の視聴と対話を行う。エンターテインメントという娯楽に結びつけられがちな〈映画〉というメディアと、〈哲学〉という難解さを想起させる学問と、〈対話〉というコミュニケーションの場を連関させ、三者の相互触発を通じて、生き方としての哲学を実践する。映画は考えずに気楽に楽しむ娯楽と消費の対象物から、人間の美的想像力と言語能力を触発し開花させる教育メディアとなる。同時に哲学は、机上の空論から、ひとりひとりの生き方を問い直すための指針を与える実践の学として蘇る。そして、映画を視聴する聴衆は、対話を通じて、ひとりひとりの声を発見し、映画に新たな息吹を吹き込むことになる。それはとりもなおさず、異質なものの、疎遠なものの、自らの慣れ親しんだ世界を揺さぶる他者と出会い直す喜びの経験でもある。本授業では、そうした試行実験の場を生み出すことを目指す。							
[Course objectives]							
1. 論理的思考と批判力を習得すると同時に、それを抽象的な理論にとどめず広義の実践につなげられるようになる。 2. 主題に則して原典および関連する二次文献を批判的かつ対話的に講読する訓練を通じて、哲学的テキストを「高度に読む」力を習得する。 3. 映画の視聴とそれをめぐる対話を通じて、哲学の言葉を生きたものとして自らの声として発することができるようになる。 4. 人間の成長、変容などの視点から、哲学を、自らの生き方と切り離せない生き方としての哲学、おとなの教育としての哲学として見直す視座を獲得する。 5. 現代社会の問題（幸福、倫理、仕事、生きがい、生と死に関わる問題など）に対して、ひとりひとりの生き方と不可分なものとして哲学的視点から批判的に議論できるようになる。							

Continue to ILASセミナー：生き方としての哲学—映画を通じて教育を考える(2)↓↓↓							

6. 最終レポートの構想発表、レポート・論文の書き方などの指導を受けつつ、他者との対話を通じた自己評価を通して授業で学習した成果をさらに深め、より質の高いレポートの執筆能力を身につける。

[Course schedule and contents)]

「エマソンの道徳的完成主義」を主題として、生き方としての哲学に関わるテキストと映画を組み合わせて授業を行う。

Day I 生き方としての哲学(Philosophy as a way of life)

1. 導入: 生き方としての哲学Philosophy as a way of life

ピエール・アド『生き方としての哲学』(2021)

斉藤直子『〈内なる光〉と教育：プラグマティズムの再構築』(2009)

2. 死にがいのある人生(Life worthy of death)

ヘンリー・D・ソロー『歩く』(1997/1851)

3. 美しい知識 Beautiful knowledge

ウィリアム・デレジヴィッツ『優秀なる羊たち』(2016)

★映画 I Am Your Man

Day II 痛みの哲学(Philosophy in pain)

4. 本物の痛み？(A Real Pain?)

ウィリアム・ジェイムズ「人間における或る盲目性について」(1958/1899)

5. 忘却・想起・自己超越 Forgetting, remembering and self-transcendence

Paul Standish, “On Freedom ’s Grip ”(2000)

ラルフ・W・エマソン「経験」(1961/1844)

★映画『君の忘れ方』(How to Forget You)

Day III 美しい知識(Beautiful Knowledge)

6. 翻訳としての哲学Philosophy as Translation

スタンリー・カベル『センス・オブ・ウォールデン』(2005/1992)

7. おとなの教育としての哲学philosophy as the education of grownups

ヘンリー・D・ソロー『ウォールデン／森の生活』(1995/1854)

齋藤直子、木村晴美『「自分を変える」ということ』(2019)

8. 自らの声で (In one ’s own voice)

ラルフ・W・エマソン「自己信頼」”(1972/1841)

★映画Stella Dallas (1925), Educating Rita (1983)

9. フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

平常点（授業への参加、ディスカッション、発表） 50%

最終レポート 50%

[Textbooks]

スタンリー・カベル 『センス・オブ・ウォールデン』（法政大学出版局、1992）

ウィリアム・デレジヴィッツ 『優秀なる羊たち』（三省堂、2016）

ラルフ・W・エマソン 『生活について』（日本教文社、1961）

ラルフ・W・エマソン 『エマソン論文集』（岩波書店、1972）

ピエール・アド 『生き方としての哲学』（法政大学出版局、2021）

ウィリアム・ジェイムズ 『「人間における或る盲目性について」』『心理学について：教師と学生に語る』』（日本教文社、2014）

齋藤直子 『〈内なる光〉と教育：プラグマティズムの再構築』（法政大学出版局、2009）

齋藤直子、木村晴美 『「自分を変える」ということ：アメリカの偉大なる哲学者エマソンからの伝言』（幻冬舎、2019）

Paul Standish 『"On Freedom's Grip" in Lyotard: Just Education』（Routledge、2000）

ヘンリー・D・ソロー 『ウォールデン／森の生活』（岩波書店、1995）

ヘンリー・D・ソロー 『「歩く」『市民の反抗 他五篇』』（岩波書店、1997）

以下の映画を授業内外で視聴する。『君の忘れ方』（2025）、I Am Your Man (2021)、Educating Rita (1983)、Stella Dallas (1925)

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

必要に応じて課題を提示するなど、学修を深める工夫をする。

映画については、授業外に各自一度は視聴しておくこと。

教科書の予習、復習を行うこと。

[Other information (office hours, etc.)]

集中講義期間、授業終了後

[Essential courses]